城山エコミュージアム通信

平成２９年（２０１７）３．１５　第３１号

エコミュージアムとは、エコロジー（生態学）とミュージアム（博物館）の造語で、その地域そのものが、生きた貴重な資料であるという考え方の下に、地域の歴史や文化、自然について学び、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。相模原市城山エコミュージアムは、地域住民主体の活動により資料収集・調査等を行い、資料を現地において保存し、展示し、広く活用することを目的として活動しています。

テーマ：　平成２８年度城山エコミュージアムのつどい

ジモトの歴史や自然を知るために

～トコロジスト（地域の達人）になろう！～

この雪形、丹沢のどこの山？

九州によくいる鳥が
こんなところに!?

大木に絡む
立派なツル植物

すべてこの辺りの写真
です。ご存知ですか？

トコロジストに必要な能力、それは、
その場所の知識と **地元愛** です

講師の秋山先生

２月２６日城山公民館において、城山エコミュージアムのつどいを開催しました。この会は、城山エコミュージアム運営委員会が日頃の活動と研究成果を地域の皆さんに紹介する場として、例年この時期に開催しています。今回のテーマは「ジモトの自然や歴史を知るために」です。運営委員長の主催者あいさつ、運営委員による本年度のエコミュージアム活動とツアーの紹介に続き、相模原市立博物館学芸員の秋山幸也先生から「トコロジストになろう」と題する講演をいただきました。秋山先生は、はじめに城山地区ならではの「とっておきの写真」を供覧してくださいました。「鬼ヶ岩ノ頭に近い尾根の白馬の雪形」、「小倉山の照葉樹林」「スダジイに絡みついたテイカカズラとフジ」「葉山島のナベツル」「腐生植物のムヨウラン」「相模原では初めて確認されたイワヤシダ」など、いずれの写真も聴講者の目を引く講演の導入にふさわしいものでした。つづいて、本題のトコロジスに関して、「トコロジストとは何か」を解説していただきました。（２面へ続く）（佐々木徹）

知ってナットク！
しろやま

城	山
検	定

問題　タンポポの花は春にだけ咲く
①○　②×　③どちらでもない

今回のトピック

- 城山エコミュージアムのつどい報告
- 身近な石造物「２つの供養塔と…」
- 城山検定「タンポポ」
- 城山探訪「白馬の雪形」
- 城山ミニ図鑑「ツマキチョウ」
- 活動報告他

おはなしのポイント

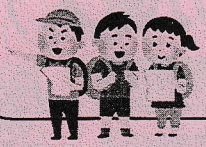
トコロジストになるには？

会場は満員！６８名で学びました

実際の活動をみてみましょう

必要なもの
- 地図
（できれば１／10000）
★トコロジスを極めるには地図を使いこなしましょう

① 地図に生きもの観察結果を書き込む
⇒「生きもの地図」が完成！



② 観察を定期的に繰り返す．
⇒生きもの地図に季節や時期が加わった「時間ー空間データ」を記録、蓄積

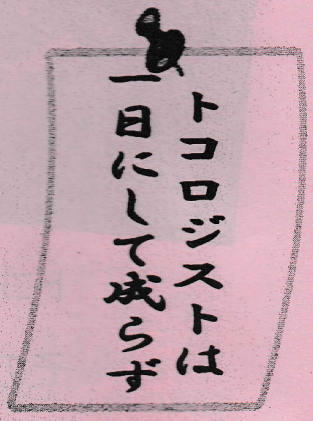
③ データを活用
①・②を繰り返すデータの活用例：花暦、観天望気等
⇒情報を発信する

★自然観察のほか、歴史・民俗で活用する場合は、古道や地名などの記録にも活用することができます。

スキルアップに大切なこと　とにかく地域を観察している時間の長さが熟成度を向上し、好奇心をもって観察した結果を記録・蓄積していくことが大切

自然と人とのかかわりについても、相模川沿いの地域に限定した言葉として、崖下の湧水（生活用水）を指す「ヤツボ」、河岸段丘の崖と、その下の湧水由来の谷戸地を含めて指す「ハケ」と地域限定の天気予報である「観天望気」を例にお話をいただきました。最後に秋山さんはトコロジストには特別な知識はいらないが、とにかく地域を観察している時間の長さが熟成度を向上し、好奇心をもって観察した結果を記録・蓄積していくことの大切さを示しました。また、各地のトコロジストたちが収集した地域限定の記録を一元化している活動例「神奈川県の花ごよみ」を紹介くださいました。地域限定の知見を全体の中で見つめ直すことが、新たな一般則の発見につながることを気づかされました。秋山さんは講演中何度かトコロジストとエコミュージアムの共通点が多いことを強調されました。今回のトコロジストに関するお話はエコミュージアムの活動に役立つ有意義なものでした。市立博物館学芸員の秋山幸也さんに改めて感謝申し上げます。

（佐々木　徹）



再発見
身近な石造物

第２回　「２つの供養塔（くようとう）と安西金平（あんざいきんぺい）」

石造物に彫られた文字から、昔の地域の様子や人々の暮らしを垣間見ることができます。

例えば、中沢地区にある「西国四国坂東観世音（宝暦７年:1757年）」、「西国四国秩父坂東湯殿山供養塔（享和４年:1804年）」には、「安西金平」という名前が願主として彫られています。また、「日待講碑」にも複数の願主の中に安西金平の名があります。この人物の名は、高野山の登山者名簿にも見られ（＊）、実際に参拝していたことがわかります。これらの石造物の建立者は同一名ですが、年代的に考えると異なった人物で、親子または直系の一族ではないかと推察することができます。（同一人物の可能性も否定できません）子孫の方に聞いたところ、安西金平はこの地域で炭の商いをしていた豪商だったそうです。石造物を建立したのがどのような人物であったか、解る事は珍しいことです。他にも、中沢には同一名で複数の石造物を建立されているものがあります。

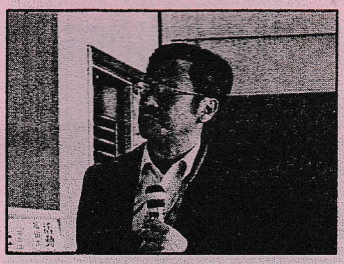
このように、石造物に彫られた文字を見ると、当時の様子を探るヒントが隠されています。（齋藤　雄也）

＊『高野山慈眼院登山帳』（寒川町史調査報告書６）
…高野山には享保 16（1731）年に宿泊した記録が残っている。
参考文献：『城山町史４資料編　民俗』

中沢・三嶋神社付近にある石造物

★何気ない石造物から、昔の地域の様子が見えてきます。地域を歩きながら、足もとに目を向けてみませんか。
気になった石造物等がありましたら、ぜひお知らせください。

活動発表



城山エコミュージアム紹介
佐々木 徹（ささき とおる）さん
城山エコミュージアムの成り立ち、活動内容について紹介しました

城山エコミュージアム
ツアー紹介
田畑 房枝（たばた ふさえ）さん
平成 28 年度ツアー開催内容についてご紹介しました

相原の歴史をさぐる会の皆さんもご参加頂きました

11/23（水） 【研修会】フィールドワーク 相模川の河岸段丘について

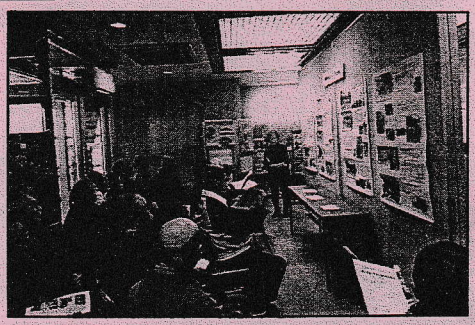
運営委員の研修会として、市立博物館地質学学芸員河尻清和先生をお招きして、河岸段丘の地層を観察しながら歩きました。段丘の高さ、大地の大きさを体感しました。河尻先生、ありがとうございました。（塩谷 弘道）

自然ガイド=チョウ編=
３年かけてついに完成

裏表８頁フルカラー

自然部会では活動の成果として、企画から３年かけて自然資料を作成、ついに完成しました。これは、自然に関心のない人も手にとって頂けるよう、身近に見られるチョウを主役に掲げ、自然や環境にも興味を持って頂けるように作成したものです。写真の撮影から記事作成まですべて部会のハンドメイド。完成した喜びと共に、ほっとしています。ご協力頂いた皆様に感謝いたします。
（金子 直美）

2/18（土）～19（日） 相模原市文化財展出展 ツアー結果を紹介

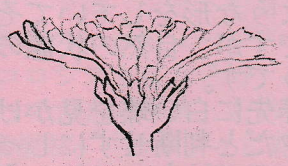


相模原市産業会館で開催された文化財展では、城山エコミュージアムでとして相原の歴史をさぐる会の協力のもと昨年１０月に実施したツアーのパネル展示を行いました。展示の発表は、田畑房枝さんが行いました。（木村 悦子）

城山検定 解説

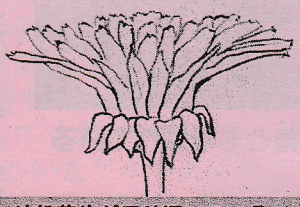
答え
③どちらでもない

【在来種タンポポ】



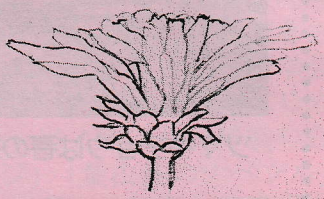
外総苞片が花の基部をしっかり包みお椀のような形

【外来種タンポポ】
セイヨウタンポポ



外総苞片が反り返っている
花の基部がコップのような形

【雑種】



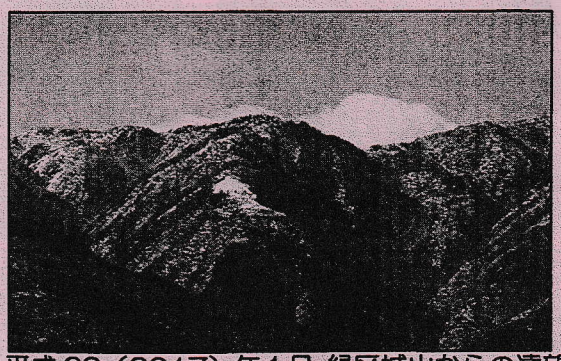
花の基部を包む外総苞片はお椀のような形だがまとまりがゆるい

穴川や小松など昔からの環境の城山地区では４月になると在来種のタンポポが一斉に咲きます。
少し遅れて道路わき、駐車場や空地などに咲くのは外来種のセイヨウタンポポが多く、…えっ、同じタンポポじゃないの？と思いませんか？
タンポポは、キク科タンポポ属に属し、日本には約２０種類が自生しています。在来のタンポポとセイヨウタンポポとの簡単な識別方法は、花の外総苞片（花の下にある細い葉のようなものがうろこ状に重なっている部分）を見ること。（図参照）
雑種は識別が難しく、花粉の形が在来種と異なるので、顕微鏡を使って花粉を見て識別します。在来種は生育するのに豊かな自然が必要で、春に咲き、受粉しないとタネができず外来種よりもできるタネの数が少ないのに対し、外来種は受粉せずにタネを作り数も多い、日当たりが良ければ１年中咲くことができ、都市化した環境に適応する特徴を持っています。この生態の違いで、在来種タンポポは市街地の拡大などの開発により生育範囲を狭められ、反対に外来種タンポポは人為的な環境のかく乱により生育場所を拡大していると言えます。というわけで **答えはどちらでもない**（田畑 房枝）

★シリーズ養蚕は、記事準備のため今号は休載します。次回をお楽しみに。

城山探訪　白馬の雪形（実際に歩きました）

「丹沢の最高峰蛭ヶ岳の隣の尾根には、冬になると白馬の雪形が現れる」と、城山町の広報で知った。さっそく普門寺の境内から眺めると、なるほど見事な白馬が天に駆け上らんばかり。あの白馬に会いに行きたいという思いが、胸いっぱいに広がった。地図で調べると白馬のいる鬼ヶ岩ノ頭の北尾根は、一般的なハイキングコースではないが、行けそうだ。春浅き３月、早戸川の魚止橋（当時の最奥の駐車場所）から１時間ほど川を遡る、目的の尾根は意外にも手入れされたヒノキ林で、苦労もなく登っていける。１時間後、ヒノキ林が終わりブナ林になり、目の前がさっとひらけ、広大なカヤト（ヤマアワ、ササ）の原っぱが現れる。これが白馬だ。遠くで鹿の声がする。笹原にはアセビの緑が点在している。白馬の首筋辺りだろうな、と思いながら登っていくと、再びブナ林。霧氷に飾られた真っ白な森を潜り、やがて鬼ヶ岩ノ頭に出た。その秋に再訪すると、原っぱにはシラヤマギクやリンドウがたくさん咲いていた。１５年も前のことである。（多羽田　啓子）



平成29（2017）年1月 緑区城山からの遠望

平成14（2002）年3月 鬼ヶ岩ノ頭・北尾根

しろやまミニ図鑑　ツマキチョウ（チョウ目　シロチョウ科）

ツマキチョウは春の妖精とも呼ばれている

ツマキチョウは、モンシロチョウを一回り小さくしたような白い蝶で、一年のうち春先にしか観察することができません。

モンシロチョウと比べるととがった前ばねの先が、オスの蝶ではオレンジ色になっており、飛んでいる姿を見てもわかることがあります。メスは、前ばねの先は黒くモンシロチョウと区別しづらいかもしれません。広く開けた場所より谷戸の周囲が良い住みかになっています。

アブラナ科の植物が幼虫の食草ですが、葉は食べずに実しか幼虫が食べないのも変わっているところだと思います。蛹は、バラのとげを大きくしたような形をしていてそのまま翌春まで過ごすようですが、自然の状態の蛹をみつけるのは難しいようです。

春先に白い蝶を見かけたときには、モンシロチョウだと判断せずにしっかり観察してみると、楽しいのではないでしょうか。（山口　雅之）

お知らせ

平成29年度の城山エコミュージアム通信は、年２回発行予定です。
次号（第３２号）は、平成２９年８月頃発行予定です。

編集後記

本沢梅園の梅も見頃を迎えています。近くには城山湖、龍籠山、金比羅神社などの見所がありますので、観梅ついでに足を延ばして見てください。（齋藤　雄也）

企画/作成：相模原市城山エコミュージアム運営委員会
発　行：相模原市立城山公民館
TEL：042-783-8194【直通】
FAX：042-783-1721
ホームページをパソコンで見る時は
相模原市　城山エコミュージアム　検索